

令和4年度前期アーバンデザインスクール第5回実績報告書

1. 開催日時

令和4年10月7日（金）16時00分～17時30分

参加人数: 34名（UDCBKでの視聴: 10名、オンライン: 24名）

※オンライン会議システムとUDCBKのオープンスペースでの視聴を併用

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、26回

2. テーマ

「稼働率100%の地域拠点施設のマネジメント」

- 地域拠点施設の先進事例の学習を通じて、子どもから学生、子育て世代から高齢者まで、多世代の居場所となるJR南草津駅前の公共施設の在り方について、5回シリーズで展望する「多世代の居場所となる駅前の地域拠点施設について考える」の第5回である。
- 第5回の本スクールは、まちなか広場研究所 主宰でUDC信州 アドバイザーの山下裕子氏を講師に迎え、阿部俊彦氏（UDCBK副センター長、立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授）のコーディネートのもと、富山グランプラザなどのまちなかの公共空間の事例や公共施設の完成前 / 後のマネジメントの重要性について紹介いただいた。

3. 話題提供者

山下 裕子 氏

まちなか広場研究所 主宰 / UDC 信州 アドバイザー



4. 話題の概要

山下氏による講演

(1) 広場

- 人が活動を起こしたくなるような「まちなか広場」は全国の色々なところで生まれている。
- あいまいで、色々な要素があるところが広場と言える。そこでは、多様なものが許容され、帰属意識が生まれる。
- 南草津には、色々なものが生まれやすい状態はあると思う。

(2) 富山グランドプラザ

- 富山市にあるグランドプラザの稼働率は、数値の上では80%ほどだが、どこかに、誰かがいたら稼働していると考えているので、100%の状態と言ってもよい。
- 居場所と移動性（出かけたという気持ち）の掛け合わせによって、誰かがいる状態が生まれている。
- 実際、隣接している百貨店の開店前でもグランドプラザの広場には人がいる。また真夜中でも誰かしらがいる。さらに、平日の日中に人がいる状態も生み出されている。
- 特に路面という空間（グランドレベル）は重要となってくる。
- コロナ禍によって、テイクアウト専門店ができるなど、グランドプラザも変わってきた。出前を取るだけで飲食イベントができるので、食に注目すると人を集める近道になると思う。
- 色々な広場で誰でも参加できる「定例会」のようなイベントが実施されている。富山では、カジュアルワイン会というかたちで開催している。

(3) 賑わい

- 賑わいとは、滞在する「人数」と「時間」の掛け合わせであり、人がいてこそ「場所」に見えてくる。
- 居ることを楽しめる場所と、その場所で楽しむ人がどれだけいるかが、評価項目になるように思う。
- 単に通過していた空間を眺めたくなるような状態にすることで、滞留 = 人が居たくなる状態が生まれてくる。
- グランドプラザも最初は人がいなかったが、スタッフがまずはその場所に座ってみることで、段々とほかの人も集まるようになってきた。
- 富山は車社会だが、グランドプラザの近くに駐車してもらって、空間の中を通ってもらうという工夫をしている。
- 屋内外の開放によって、人が入りやすくなる。平日ランチの販売、マーケットの開催、「ほこみち」制度の活用など、できることを色々実施している。

- 広場は、誰でも買い物しやすい空間になっている。ベビーカーの親子連れも利用しやすい。
- 土日には、ビールやウェディング、ダンス、マーケットイベントなど様々な催しを行っており、全国各地から人が来てくれる。
- 人が集うと、商いが生まれる。その意味で、マーケットというイベントは向いていると思う。神戸市の郊外のまちの事例では、さつまいものままでは売れ行きがよくなかったが、加工して焼き芋にすることでうまくいった。
- グランドプラザでは、日常、近所の人に居心地よく過ごしてもらえることが大切であり、大人が何もしていなくても、ポーッとできる空間づくりを心掛けている。
- 保育園の子どもに遊びに来てもらうような工夫をしたことがある。まちなかで遊んだ記憶というものがつくられることは大切である。また、子どもが遊びに来ることで、必然的に大人もやって来る。多世代が出かけるきっかけになる。
- 基本的に、市民からの提案に「No」と言わないようにしている。行為・行動によって、賑わいが生まれるかが判断基準になる。選択肢を豊かにして、色々な人に出会えるイベントを実施している。
- しがらみのないインターンシップの学生を受け入れて、色々なことにチャレンジしている。

(4) 居場所づくり

- 関係性の育成によって、ネットワーク型サードプレイスの形成を目指している。
- 単なる課題解決ではなく、「楽しみ」をつくることが大切である。
- 地域性を大切にする。グランドプラザでは、広場に富山らしさを感じてもらえるような工夫をすることもある。地域の宝の棚卸しで生み出されるものがある。
- まずはやってみる、試してみることができるフィールドをつくることが重要となる。
- 広場を利用することで、みんなが地域の主体者になり、地域共同体的関係性の構築につながっていく。

5. 質疑応答等

(1) 阿部氏: 焼き芋の例もあったが、南草津にも五感で感じられるものがあればよいと思う。南草津には、「ゆるい空間」がない。用途が決まっている。いわゆるグレーゾーンのようがないので、ベンチを置くことも難しい。

山下氏: 松本市の例にあるようにちょっとしたところでもベンチは置ける。ベンチを置くと、そこに人が集まるのでお知らせを掲示する人も出てくる。藤棚を作ってしまう人もいる。

阿部氏: 工夫次第で、おもしろいこともできるのだと感じる。

(2) 参加者 1: 定例会とはどのようなものか。

山下氏: 富山だけでなく、定例会は色々な形態で解されており、基本的に誰でもウエルカムな場所なので、初めての人でも参加できる。参加してみたいところに、出掛けてもらえればと思う。

阿部氏: 是非、UDCBKでも開催したい。

(3) 参加者 2: 賑わいづくりで重要なものは、人数か、時間か。

山下氏: 立地によって左右される。富山であれば滞在時間が重要になり、神戸の市街地であれば、人数がより重要になる。目安の時間としては10分ということになる。フィールドで同じ人が同じことばかりしているというのは面白くない。新規性にチャレンジして、可能性を無限に広げていくことが大切だと思う。

(4) 参加者 3: 運営側がイベントを実施しすぎると、消費者として利用するだけということが発生しやすいと思うが、次につなげるために気を付けていることはあるか。

山下氏: こちらから何かをしようということには言わないようにしている。そうではなくて、何かの動きをサポートするということにしている。以前、関係性を輻輳化させるようなワークショップを実施したが効果があった。

(5) UDCBK: 南草津でも駅前空間の滞留が課題と考えている。社会実験準備事業なども実施しているが、役所などが主体ではなく、住民の方々が実際にやってみるということはやはり大切なことか。

山下氏: 週1回でも、住民が実際に現場で余暇を過ごしてみようかなというイベントを始めてみるのがよいように思う。また、市役所の方も住民であると思うので、毎日は難しいと思うが、関わってもらえればと思う。

(6) 参加者 4: 用意された空間というものは使われづらいように思う。どういった仕掛けづくりが重要となるか。

山下氏: 例えば、模様替え、レイアウトを変えるということでも違ってくる。またその場所をなるべく多く掃除することも大切である。その場の空気を動かす工夫をする。

6. アンケートまとめ

参加者 34名のうち、アンケートに回答いただいた方は13名だった。

問 1. 参加者属性

(1) 年代 (回答数: 13)

10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上
0	7	5	1

(2) お住まい (回答数: 13)

草津市内	滋賀県内他市	滋賀県外
6	4	3

(3) 職業 (回答数: 13)

学生	大学関係者	会社員等	その他
0	2	7	4

(4) 開催を知った手段 (複数回答) (回答数: 15)

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報誌	知人	その他
5	0	1	5	1	1	2

問2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- 素敵なお講演ありがとうございました。とても丁寧で聞き取りやすい声で、気持ちよく聞くことが出来ました。体調が芳しくない中、草津のまちの為にありがとうございました。感想にはなりますが、お話の中で地域性という言葉がありました。草津の地域性が一体どういうものかを考える必要があるなと思いました。富山は大きな街ですが、グランドプラザで行われたようなことが、周辺に所在する他の街でうまくいくかということ、それぞれの町に合った形にする必要があるように、地域性や利用者が求めるニーズを捉えて、草津の街に合う形を見つける必要があるなと思いました。
- 大切だと思ったこと: 広場、ぼんやり出来る場所、知り合いが通っておしゃべり出来る時間と空間の豊かさ、そのための工夫を真剣に考えること。チャレンジしたいことがある人、それがなくても応援出来る人そのマッチング出来る場所が必要。「定例会の価値」UDCBKが草津の街中が「学生の研究・練習の場」になれば良いと思いました。協力したい人は大勢いらっしゃると思います。たくさんの気づきをありがとうございました。
- まちの仕掛けづくりが必要と思いました。一方で、防災機能、人の流れと安全性について深くお伺いしたく、機会がありましたらお伺いできればと思います。
- まずは自分たちで滞在するなど具現化、またチャレンジしていくことの大切さを感じました。
- 賑わい=滞在人数×滞在時間で1人×10h、10人×1hが同じ魅力ということが理解できました。この魅力は、立地、場所性が重要ということも理解できました。
- 広場での余白の作り方、残し方を考えていきたいと思います。

- 焼き芋の話が盛り上がったので、野路にもあるよー!とあとで阿部先生にもお伝えしました。地域活性化の宝をUDCBKを通じて集まる仕組みとか、期待してます!
- とても素敵な活動をたくさんご紹介頂きまして感服いたしました。南草津にも是非お力を頂戴できればなあと思いました。
- 山下様の講義非常に参考になりました。何もしなくてもいい。誰かがいるから自分の安全ができ、居場所ができる。そんな言葉にたくさんのヒントがありました。自分も繋がりを作る場で何かをしたいと思っています。ハードを活かせるソフトの部分としてたくさんの学びありがとうございます。実際にお話させてもらえる機会があれば楽しかったらうとリアルでなく後悔です。
- 私は南草津の駅前広場で実現したい事があるのですが、余計な事かと迷ってもしました。今日、先生のお話を伺い、迷いが消えた気がします。共感するばかりのお話の中で、特に印象に残ったのは「お節介にいいも悪いもない」という事です。私のUDCBKの活動への参加のきっかけは、世界の町を訪ねるTV番組で、決して裕福とは見えない人達が何とも楽しそうにワイン片手に口を揃えて「幸せだ」と言っていた事でした。「ここに来ればいつでも誰かがいるから」がその理由です。私をもっと高齢になってもお気に入りの「東山道公園」が各世代の、そして私の居場所であってくれるよう、私なりの『お節介』を続けていきたいと思っています。

問3. 今後のテーマや概要等についての要望

- ゼミ生の方の面接の場でもあると思いますので、市役所の職員の方と積極的にかかわっていただければいかがでしょうか。
- 夕方のZoomは、割と都合がよいです。
- 特にありません。